

第20号の発刊に寄せて

学長 安藤 広子

紀要第20号の発刊おめでとうございます。そして、今日に至るまで、紀要の編集に携わった皆様に感謝と御礼を申し上げますと共に、紀要に投稿していただきました皆様のご努力に敬意を表します。先日、第1号から手にとって見させていただきましたが、掲載されています論文内容から、本学の短期大学・看護大学としての教育・研究に真摯に取り組む姿勢が伝わってくるような気がいたしました。

私たちの生活環境は、人口（疾病も含む）構造の変化や科学・医療技術の進歩、情報化社会となり、人々の価値観が多様化するなど、大きく変化をしています。本学は、社会の状況を見据えつつ、看護・介護の専門技術を大事に教育してきた長い歴史をもっておりますが、専門職者としての技術の実践には、科学的根拠に裏付けられた知識はもちろんですが、対象者の状況やニーズに合った専門技術が提供できるように、常に探求に努めていくことが必要とされています。

本学の紀要がますます充実され、その新たな知見を皆で共有し、教育・研究の質がさらに向上し、発展されますことを祈念いたします。

（1階の学生ロビーに設置されたモニュメントの言葉をご紹介します。）

時の共感

人は流れゆく時の中に潜んでいる。
本質をしっかりと見つめていて
スピードと変化に富む現代社会と
共存しながら確かな目を持ち続けながら。
時は確実に動いているのだ。
明日の希望と夢を託して。

平成十年八月二十日

林 美光 作